

社会科学学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成26年 7月2日（水）

場 所 3年A組教室

生 徒 久慈市立大川目中学校3年A組
（男子10名、女子10名、計22名）

授業者 教諭 吉田 桂

1 単元名 二度の世界大戦と日本 「恐慌から戦争へ」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、中学校学習指導要領歴史的分野の内容(5)「カ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる」を受けて設定した。

このころの日本は、第一次世界大戦における空前の好景気で世界5大国の一つにのし上がったものの、その後の世界恐慌を機に、軍国主義（戦争や軍事を最優先に政治を進めること）や全体主義（個人よりも国家全体の利益を優先すること）へ傾倒していく転換期である。第一次世界大戦の反省から、世界全体が国際協調路線へ進もうとしていたにもかかわらず、二度目の世界大戦を招いてしまった。日本では、昭和恐慌に苦しむ中、東北地方が大凶作にみまわれ、国民が生活苦のどん底に突き落とされた。そして、列強各国は結局、植民地を活用したブロック経済によって恐慌を乗り越えており、日本でも植民地獲得の必然性が高まった。この2点が主な背景である。政府や天皇自身が戦争を望まなかったにもかかわらず、結局、軍部の暴走や国民世論の高まりによって、軍国主義の道を歩み始めてしまった。世界全体が平和を望み、我が国の為政者も戦争を避けようとして、それでもなお、悲惨な15年間の戦争へ突入してしまったのである。このことは、単なる歴史的事象としてのみならず、「未来を築いていくすべての日本国民が、国内外の危機に対してどう向き合うべきなのか」という、現在を生きる我々への問いかけと受け止めたい。未来を考えるためのエッセンスに満ちた教材である。

したがって、本単元には大きく次の2点のねらいがある。1つは、「各国の動きや日本国民の生活の様子とともに、戦争までの経緯を客観的に知ること」、もう1つは、「平和を希求するために必要なことを歴史から学び、現在や今後の意思決定・社会形成に生かそうとすること」である。この2点について多面的にとらえ考えることは、生徒の公民的資質を養う上で必要不可欠と考え、本単元を設定した。

(2) 生徒について

本学級の生徒は、歴史の学習に対する関心が高く、授業に意欲的である。小学校から単一学級で持ち上がっているため、互いのことをよく分かっており、かかわり合いながら学習を深めるための土壌はある程度育っている。難易度の高い課題に対しても、小グループで学習活動させることですべての生徒が学びに参加し、自分なりにかかわることができる。自信のないことに対しても、スモールステップで手立てを講じるとほとんどの生徒が意思を発動することができる。また、「歴史が苦手」という生徒にも基礎基本を定着させるため、毎時間小テストを続けてきた。小テストの一问一答形式の問題には、毎回8～9割の生徒が満点を取れるようになっている。

一方、資料活用能力や思考力・判断力・表現力においては個人差が大きく、継続した指導の工夫が必要である。社会を取り巻く問題への関心が高いにもかかわらず、どこかで耳にした大人の意見を受け売りするだけで、事象の因果関係を自分の言葉で説明したり、必要な資料を関連付けて分析したりする力は不十分である。その背景には、①漠然と分かっていることを論理的に言葉で表現する力が弱いことと、②仲間と学びを共有することで学びを深める経験が不足していることが考えられる。①表現力に関しては、毎時間、前時想起のときに学習問題に対する答えや重要語句の説明をペアどうしで説明し合う活動を取り入れてきたため、表現活動そのものには慣れて

きている。足りないのは思考・判断したことを伝えるための「語彙」である。これは、重要語句に限らない意味の曖昧な語句に対し、「読み方」と「易しい言い換え」を与え、さらに後でそれを見直すことができるような空間的工夫が必要である。また、②仲間との学びの共有に関しては、個人の手へ負えなくなると急激に苦手意識を感じる生徒が多い。しかし本学級の生徒たちは、周囲と相談するわずかな時間を与えるだけでも断片的な考えが網の目のようにつながり、論理的な言語活動がスタートする。同じく小グループでの活動も手立てをもって学ばせれば、すべての生徒が課題解決まで到達することができる。さらに、生徒が考えたくなる発問によって思考をゆさぶると、たとえ拙くとも複数の社会的事象を関連させながら解釈したり、説明したりすることはできる。それらの反応を拾いながらねらいにせまることは可能である。

以上の実態から、「語彙を与えるための空間的工夫」・「かかわり合う場の設定の工夫」・「発問によって思考をゆさぶる指導」の3つの指導方法が有効である。

(3) 単元で育てたい力、そのための具体的な手立てについて

以上をふまえて、本単元では、「思考力・判断力・表現力」と、「かかわり合いの中で学びを深める力」の育成をねらう。そして、これらは生徒の主体的な学びの上に成り立つものである。生徒が主体的に学びを深める手立てとして、次の3点に留意する。第1に、生徒の中に、問題解決の必然性を芽生えさせるということである。具体的には、単元全体を通して「戦争を回避するチャンスはどこにあるのか」を問いかけ、歴史から学び取ったことを未来に生かす喜びを教えたい。第2に、効果的に小グループの学び合いを取り入れるということである。本時のねらいによって工夫の在り方は変わって

くるが、ホワイトボードにメモを取りながら難易度の高い課題を与えることで言語活動やかかわり合いを発生させ、学びの深化を図る。第3に、生徒個々の思考・判断を教師の発問や声かけによってつないでいくということである。コの字の座席の有用性を生かしつつ、表現することの価値を生徒の中に高めたい。

校内研究テーマにかかわる社会科授業の視点	
「主体的に学ぶ」とは？	
① 仲間とともに学ぶことで学習が深まっている	思考・判断・表現
② 夢中になって学んでいる	学習意欲
③ 学んだことを理解している	基礎的な知識・理解
「主体的に学ぶ」手立ては？	
① 必然性のある学習	(対象世界との出会いと対話)
② 小グループでの学び合い	(教室の仲間たちとの出会いと対話)
③ 表現の交流と共有	(自己との出会いと対話)

以上の手立てをもって主体的に学びを深めさせ、単元のねらいに迫る。

3 単元の指導目標及び評価規準

(1) 指導目標

世界恐慌以降の世界的な経済的混乱と社会問題、日本の政治と外交の動き、中国との関係や欧米諸国の動き、戦時下の国民生活についてとらえ、軍部の台頭から戦争までの経過を理解させるとともに、軍国主義に傾倒する要因や回避に不可欠な要因について自分の意見をもたせる。

(2) 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第二次世界大戦前の世界と日本の動きに対する関心を高め、世界平和の実現を旨とした国際社会の挫折や、戦争に向かっていく世界と日本の情勢について意欲的に追究しようとしている。	第二次世界大戦前の複雑な国際情勢について、経済と政治の動きを結びつけながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	第二次世界大戦前の世界と日本に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	第二次世界大戦を引き起こした要因について、世界恐慌による世界経済の悪化と各国の社会の混乱、それにともなう政治体制の変化を関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。

4 単元の指導計画及び評価計画（4時間）

時	指導内容	評価	評価場面
1	世界恐慌に対して、各国はどのような対策を講じたのだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌の概要と、欧米諸国の対応について調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解している。【知識・理解】 軍部の主張や国民の生活を具体的に調べ、当時の状況から、日本の取るべき進路について考え、自分の意見を述べている。【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手 発言 ノート
2	世界恐慌は、イタリア・ドイツ・日本にどのような影響を与えたのだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> イタリアとドイツに台頭してきたファシズムの実態について理解させる。 蒋介石の中国統一と、それに対する諸国の反応について理解させる。 日本の取るべき進路について、具体的な資料をもとに話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ファシズムの問題点を、現代の社会や生活と関連させて、考えようとする態度を身に付けている。【関心・意欲・態度】 世界の動きと関連させながら、日本の政治の流れをまとめている。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手 発言 ノート ホワイトボード
3 (本時)	日本はなぜ、15年にわたる戦争に突入していったのだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> 満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解させる。 国民の困窮や軍部の主張などをもとに、戦争回避のチャンスについて話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解している。【知識・理解】 軍部の主張や国民の生活を具体的に調べ、当時の状況から、日本の取るべき進路について考え、自分の意見を述べている。【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手 発言 ノート ホワイトボード
4	日中戦争は、中国・朝鮮・日本国民にどのような影響を与えたのだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の中国侵略の実態とそれに対する中国民衆の動きを理解させる。 当時の日本の社会や国民生活の状況から、国民の思いや考えを推察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当時の日本の状況と、中国の民衆の立場を理解し、公正に判断しようとする態度を身に付けている。【関心・意欲・態度】 国民生活がしだいに統制されていった状況を理解している。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手 発言 ノート ホワイトボード

5 本時の指導

(1) ねらいと評価

ねらい	概ね達成	未達成の場合の支援
満州事変が日本による中国侵略の始まりであり、その後の15年にわたる戦争の始まりであることを理解し、戦争回避の要素を考えることができる。	生活苦を打開するための国民の思いから軍部の暴走が始まったことを理解し、戦争回避の要素を自分なりに考えている。	当時、満州支配が生活苦打開の道と多くの国民が信じていたことに目を向けさせる。

(2) 指導の構想

「戦争は悪」「当時の指導者が悪い」と、過去の歴史を片付けるのは簡単である。しかし、未来を切り開く公民的資質を育むためには、一つの歴史的事象を多角的にとらえ、多くの意見に耳を傾けながらも、最終的には、それぞれが自分の意見をもつことが不可欠である。そのために、本時は、以下の構想で臨みたい。

まず、授業の前半は、学びの必然性を高めるために、満州国建国が国際社会に認められなかった理由を「謎解き」という形で考えさせ、資料から追究させたい。また、満州事変からつながる五・一五事件や国際連盟脱退までひとつづきで学ばせる。

次に、満州事変を理解した上で、「戦争回避のチャンスは？」という視点によって歴史的事象を見つめさせる。世界恐慌が日本国民にどれだけ苦しい状況をもたらしたかに立ち返り（連続）、「一方政府ですら満州国を認めなかったのに軍部が主導権を握ったのはなぜか」を考えさせることを通して、最終的に日本が長きにわたる戦争への道を進んでしまった過程をとらえさせたい。

現在は過去の教訓があり、情報にあふれている。未来をみつめるためには、過去に学び、情報や状況や進むべき道を自分の頭で考えることが重要であることに気づかせたい。ただし、本学級の生徒にはやや難易度の高い課題であり、生徒が主体性をもって学習に参加しなければ学びとして成就しない。そこで、小グループのかかわり合いによってすべての生徒への学びを保障し、学びの深化を図る（共有）。具体的には、ホワイトボードに仲間の意見をメモするという活動を取り入れる。グループ内での役割は敢えて決めず、「よく話す人」「ホワイトボードにメモ・整理する人」「言葉少なでも仲間の話に耳を傾けて玩味する人」など各自のスタイルの中で、教師の声かけを助けとしながら思考を拡散・深化・焦点化させるようにしたい。

さらに、ホワイトボードをもちいた話し合いや、その後の表現、まとめの記述など、言語活動を充実されるために、本時できちんと意味を捉えるべき大切な言葉の意味を確認し、いつでも見直せるように言葉のカード（社会科のビタミン剤）を掲示するようにする（空間）。

以上を軸として、連続・空間・共有からのアプローチにより、生徒が主体的に学ぶ授業を目指す。

(3) 学びの「連続」「空間」「共有」と本時の学習との関連事項

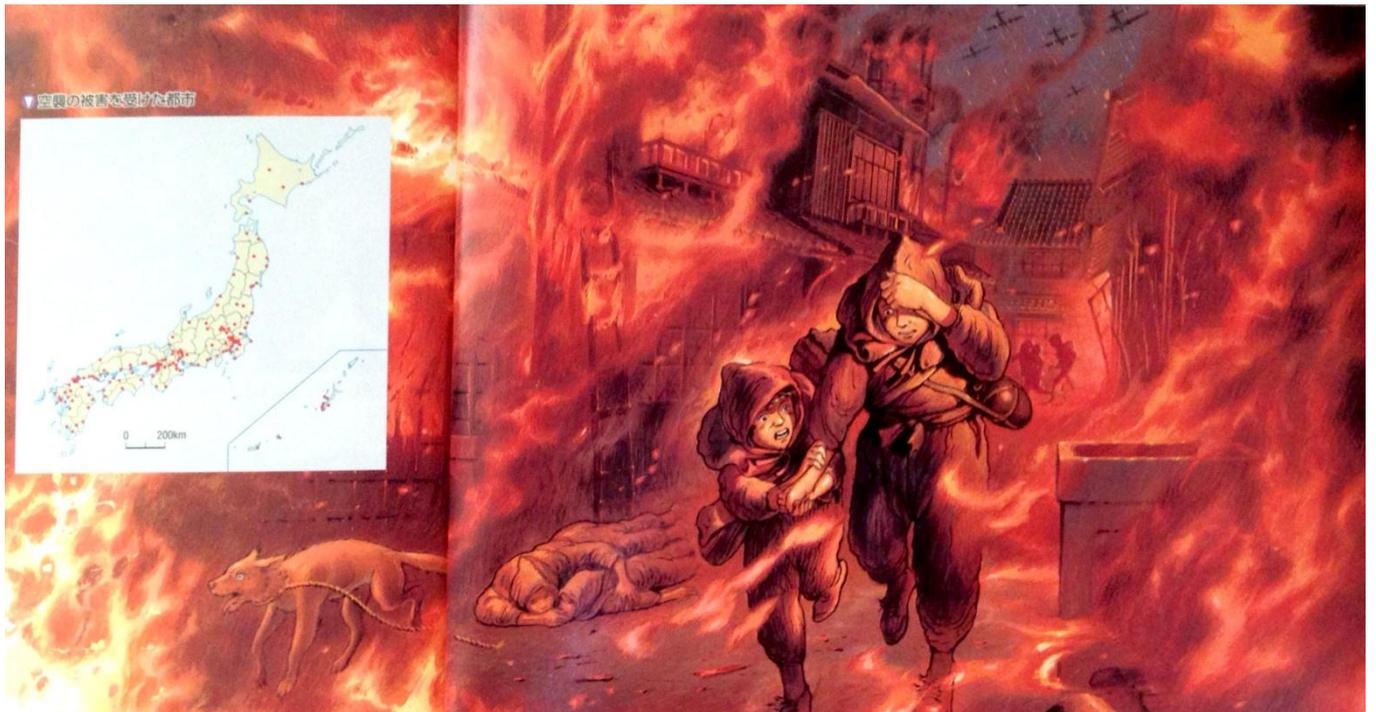
連続	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の振り返りを、本時の学習に不可欠な要素として関連させる点。 ・課題設定のあと、学習の視点と見通しを確認させる点。 ・本時の終末において、学習活動を振り返り、文章にまとめる点。
空間	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実のために、意味があいまいな語句が分かるように語句カードを掲示していく点。 ・教師の言葉で生徒の思考をつなぐことで、生徒同士が聴きやすく話しやすいコの字の座席の有用性を生かそうとする点。
共有	<ul style="list-style-type: none"> ・個人作業を共同化し、教室の仲間と考えを交流させたり共有させたりしようとする点。 ・小グループでの学び合いによって、お互いの考えを共有したり比較・関連したりさせる点。 ・ホワイトボードの活用によって、個々の考えが混ざり合うなど、生徒の表現活動を補助する点。

(4) 本時の展開

段階	学習内容と学習活動	指導上の留意点	資料など	授業の視点
課題把握 5分	<p>1 レディネスにかかわる内容をペアで説明し合う。</p> <p>2 本時の学習課題を把握する。 「太平洋戦争はなぜ？」←「真珠湾はどここの国？」←「なぜアメリカと戦った？」←「なぜ中国と戦った？」の4点を考え、本時の課題を把握する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本はなぜ、15年にわたる戦争に突入していったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界恐慌」と「ファシズム」をペアで説明し合う。 ・小学校での歴史学習を想起しながら、太平洋戦争中の悲惨さを共有し直し、課題解決への意欲を高める。 	<p>※ビタミン剤 「世界恐慌」 「ファシズム」</p> <p>資料① 「空襲の様子」</p> <p>資料② 「焼け野原の東京」</p>	<p>連続 2 空間 5</p> <p>連続 1</p>
課題の追究 40分	<p>3 学習の視点を確認し、学習を見通す。 視点:「戦争への道をさけるチャンスはなかったのか」を考える 見通し: ①ある事件について学び、事件の謎を解く ②上記の視点について話し合う ③学習課題に対する答えをまとめる</p> <p>4 満州事変について理解する。 (1) 満州事変の概要を資料(授業者が手を加えた教科書)から理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中国にある日本の満鉄→爆破(柳条湖事件) ・関東軍による満鉄沿線都市占領 ・日本政府による不拡大方針 ・関東軍による全満州占領 ・関東軍による満州国建国 (2) 「42対1」の謎解きをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・中国政府が国際連盟に訴えたことに対して、中国政府を支持するか、日本政府を支持するか、自分の意見をもつ。 ・リットン調査団の報告を受け、国際連盟総会での採択が42対1(1が日本)だったことを知る。 ・資料から、満州事変を起こしたのは誰だったのかを読み取る。 (3) 五・一五事件、国際連盟脱退について理解する。</p> <p>5 どうしたら戦争への道を避けることができるのかを話し合う。 (1) ここまでの学習をもとに、小グループで自分たちの率直な意見を交流する。 (2) 資料によって、生活苦による政府への失望や満州国への国民の期待感を知り、再度、軍国主義に陥らないためのポイントを話し合う。 (3) 全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の始まりはまだ先だが、日本が戦争へ進むことと関係する事件であることを押さえる。 ・政府の方針に逆らってまで全満州を占領した関東軍の意思と、日本国内のムードを押さえる。 ・教師の発問に答えさせながら生徒の思考を以下の2点に焦点化させる。 <ul style="list-style-type: none"> ①日本以外のすべての加盟国が満州国を認めなかった。 ②満州事変が、関東軍による自作自演であった。 ・日本政府ですら関東軍の行いを認めていなかったことを押さえる。 ・「どの時点で、何をすれば避けられたのか」を視点にする。 ・グループで意見をまとめる必要はないことに留意させる。多様な意見を交流し、ホワイトボードはメモとして使用させる。 ・資料によって思考にゆさぶりをかけながら、「現代なら、どうするか」という視点にシフトしていく。 	<p>※ワークシート</p> <p>資料③ 加工した教科書</p> <p>※ビタミン剤 「満州」 「関東軍」 「事変」</p> <p>資料④(資料集P160) 「リットン報告書」</p> <p>※ビタミン剤 「軍国主義」</p> <p>※ホワイトボード</p> <p>資料⑤(資料集P160) 「満州開拓民募集ポスター」</p> <p>資料⑥(資料集P160) 「五・一五事件のよびかけ」</p> <p>資料⑦ 「ナチス高官の言葉」</p>	<p>連続 1</p> <p>空間 5</p> <p>共有 6 空間 4</p> <p>空間 4 共有 6 共有 7</p>
まとめ 5分	<p>6 学習課題に対するまとめと、戦争回避に必要なことについて自分の意見を書く。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「経済の混乱を中国侵略で乗り切ろうとした軍部の動きを、国民や政治家が止められなくなってしまい、国際社会から孤立したから」というまとめが書けることを目指す。また、戦争回避の自分の意見を改めてつづる。</p> <p>7 まとめを全体で交流する。</p>			<p>連続 3 共有 7</p>

6 資料

資料①「空襲の様子」



資料②「焼け野原の東京」



▲ 焼け野原の東京 アメリカ軍の空襲は無差別に行われ、各地が焼け野原となりました。東京大空襲の死傷者は、12万人といわれます。

資料⑤ 「満州開拓民募集ポスター」



資料⑥ 「五・一五事件のよびかけ」

◆五・一五事件のよびかけ

日本国民よ！ 今の祖国、日本を見よ！ 政権にしがみついた政党と、民衆の血を搾り取る財閥と、圧政を強める官憲と、米英に対する軟弱外交と、墮落した教育と、腐り切った軍部と、悪化した思想、共産主義と、生活に苦しむ農民や労働者階級と。どこに皇国日本の姿はあるか。今立たなければ、日本は滅亡するだけだ。(竹山道雄「昭和の精神史」)

資料⑦ 「ナチス高官の言葉」

デスクメモ

ヒトラーの右腕だった高官が戦後の裁判でこんな趣旨の証言をしたという。「国民は戦争を望まない。しかし決めるのは指導者で、国民を引きずり込むのは実に簡単だ。外国に攻撃されつつあると言えよ。それでも戦争に反対する者を、愛国心がないと批判すればいい」。だまされてはいけない。(文)